

令和8(2026)年度
学習院大学大学院

国際文化交流研究科
修士課程

2026-A 日程
論述(大学院入学試験)

注意事項

1. 試験開始の合図があるまでに、この注意をよく読んで間違いのないようにしてください。
2. 試験開始の合図があるまで、問題を開かないでください。また解答用紙は机の上に裏返しにしておいてください。
3. この問題は1枚です。落丁、乱丁、印刷不鮮明などの箇所のある場合は申し出てください。
4. 解答は必ず解答用紙の所定の場所に記入してください。解答用紙は2枚です。
5. 文字ははっきり書いてください。解答の文字が読みにくい場合、及び問題の指示に従っていない場合は点を与えないことがあります。
6. 解答用紙には受験番号を必ず記入してください。
7. 解答用紙の評点欄には何も記入しないでください。

課 程	修士課程	研 究 科	国際文化交流研究科	専 攻	国際文化交流専攻	受験 番号	
試験 科目	2026年度 一般入試(A日程)					用紙 枚数	1/1枚
	論		述		問題用紙	評 点	

共通問題1問と選択問題([1]～[4])から1問、計2問について、それぞれの問いに日本語で答えなさい(選択問題は、「入学志願票」で希望したプログラムに応じて選んで下さい)。問題ごとに解答用紙1枚以内で解答しなさい。

2枚の解答用紙の両方に受験番号を記入し、解答した問題を○で囲みなさい。

【共通問題】[全員が解答すること。]

▲150

現代の情報社会においては、ICTやAIの普及により、政治参加や教育、医療、行政サービスなどが大きく変化している。ただし、それらの技術にすべての人が平等にアクセス・活用できるわけではなく、「情報格差(digital divide)」という深刻な課題があり、様々な社会的悪影響が懸念されている。現代社会における情報格差の構造と、その是正に向けた課題について、具体的な事例を交えつつ論じなさい。

▲300

【選択問題】[以下の[1]～[4]より1問選択して解答すること。]

[1][「アートマネジメント」プログラム]

多文化共生社会を実現するために、美術館や博物館に期待されている役割は何か。具体的な美術館・博物館の事例を挙げ(国内外を問わない)、あなたの専門的見地から、それらが果たしてきた、あるいは果たすべき役割について論じなさい。

▲450

[2][「国際協力」プログラム]

機関への拠出金を減らそうとしたりしているが、その他の国々でも近年「自国第一主義」が台頭し、人道支援と多国間協調が危機にさらされているとも言われている。その状況について詳述し、問題点と課題、提言を述べなさい。

▲600

[3][「日本学・比較文化」プログラム]

日本では、自然環境や季節の移ろいが食文化や年中行事などに深く影響を与えてきた。一方で、世代間や地域間の交流が希薄になり、伝統文化の継承が難しくなっている。具体的な課題を示したうえで、伝統的文化をいかに維持・継承していくかについて、自身の視点から論じなさい。

▲750

[4][「国際関係・地域研究」プログラム]

日本の外交政策の一つである「法の支配に基づく自由で開かれた国際秩序の維持・強化」の是非と有効性について、近年の国際情勢を踏まえながら、あなたの意見を述べなさい。

▲900

(注意) ・答案は必ず提出すること。 ・太線内は必ず記入すること。

学習院大学大学院

課程	修士課程	研究科	国際文化交流研究科	専攻	国際文化交流専攻	受験番号	
試験科目	2026年度 一般入試(A日程)	論	述	解答用紙		用紙枚数	1/2枚
						評点	

【共通問題】

▲
150

▲
300

▲
450

▲
600

▲
750

▲
900

出題の意図

入試年度：令和（2026）年度入学者選抜

選抜区分：大学院国際文化交流研究科修士課程 A 日程

実施日：令和（2025）年 11 月 8 日

※「出題の意図」についての質問、照会には一切回答しません。

論述の共通問題に関しては、現代情報社会における「情報格差」という国際社会が共有する問題について、それぞれの専門的立場からいかに論理的に説明するか、文章の整合性、説得力、独創性の要素も踏まえて総合的に評価することを意図している。選択問題も同様に、アート・マネジメント分野では「多文化共生社会とアートの関係性」、国際協力分野では「自国第一主義と人道支援・多国間協調」、日本学・比較文化分野では「伝統文化の継承」、国際関係・地域研究分野では「法の支配に基づく自由で開かれた国際秩序の維持・強化の有効性」について、それぞれ各専門分野の視座から論述を行うことで文章の論理性と整合性、説得力及び視点の独創性を総合的に評価する。

英語の論述に関しては、長文の内容を十分に理解した上で、それに対する自らの意見を英語で適切に記述することができるか評価することを意図している。